

学修概要

少量で生体機能に大きな影響を与える薬物の作用機序について学ぶ。また、現在各医療分野で一般的に使用されている基本的薬物にどのようなものがあるか概観する。さらに、薬理学を通じて生理学、病理学の知識を深める。

- 教科書：1 最新歯科衛生士教本
疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学 第2版
医歯薬出版
2 プリント配付
- 参考書：現代歯科薬理学（第6版）医歯薬出版
- 授業時間：月曜日 9：00～9：50, 10：00～10：50
- オフィスアワー：藤田 智史 火曜日 17:00～18:00 (fujita.satoshi@nihon-u.ac.jp)
小林 真之 金曜日 17:00～18:00 (kobayashi.masayuki@nihon-u.ac.jp)
山本 清文 月曜日 17:00～18:00 (yamamoto.kiyofumi@nihon-u.ac.jp)
中谷 有香 月曜日 17:00～18:00 (nakaya.yuka@nihon-u.ac.jp)
- 授業の方法：担当者は全員、薬理学分野における研究経験を有する。それを生かし、教科書の内容とその背景を講義する。
- 準備学習・準備学習時間：講義項目について教科書や参考書を読み、出席すること。特に講義範囲に該当する生理学や生化学などの基礎知識を確認しておくことが望ましい。講義時間に相当する予習復習を行うこと。
- 成績評価：平常試験 1 回分を 30%とし、残り 70%を定期試験により評価する。
- 注意事項：必要に応じて資料を配布する。
- 実務経験：藤田智史：薬理学分野における研究経験に基づいて、教科書に書かれている内容を、その背景から解説していきます。また、卒後、口腔外科学講座において臨床を学んだ経験、一般診療および全身疾患を有した患者さんを多く診る訪問診療に従事した経験を生かし、薬理学で学ぶ薬物の知識が臨床でどのように反映されるかといった視点とともに講義をしていきます。
小林真之：神経科学分野における研究経験を生かして、薬理学のみならずその周辺にある生理学、解剖学、生化学など他の基礎医学分野の知識と結びつけて、薬物の作用メカニズムを解説します。また、麻酔科や口腔外科など臨床で用いられる薬物の説明に関しては、歯科医師として臨床家の視点に立って講義します。
山本清文：神経生理および薬理分野の研究経験と歯学部での教育経験を生かして、疾患とそれに対する薬物の作用機序を複合的に理解できるよう解説します。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第1・2回 10月7日 藤田 智史	1. 薬理学総論 (教)pp. 2-10	<ul style="list-style-type: none"> 薬物療法の種類を学ぶ。 薬理作用の基本形式と分類を学ぶ。 薬物の用量と反応について学ぶ。 薬物の作用機序について学ぶ。
第3・4回 10月21日 藤田 智史	1. 薬理学総論 (教)pp. 11-21	<ul style="list-style-type: none"> 薬物の生体膜通過様式を学ぶ。 薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄)について学ぶ。
第5・6回 10月28日 藤田 智史	1. 薬理学総論 (教)pp. 22-36	<ul style="list-style-type: none"> 薬物の適用方法の種類と特徴について学ぶ。 バイオアベイラビリティについて理解する。 薬効に影響する因子と生体の感受性について学ぶ。 薬物の反復投与によって生じる、耐性、蓄積、依存について学ぶ。 薬物の併用の影響について学ぶ。
第7・8回 11月11日 藤田 智史	1. 薬理学総論 (教)pp. 37-50	<ul style="list-style-type: none"> 薬物の副作用について学ぶ。 薬物投与における、妊婦、授乳婦、乳幼児、小児、高齢者の特徴を学ぶ。 服薬指導について学ぶ。
第9・10回 11月18日 藤田 智史	1. 薬理学総論 (教)pp. 51-64	<ul style="list-style-type: none"> 薬物の取り扱いについて学ぶ。 処方せんについて学ぶ。 薬物を規制する主な法律について学ぶ。 医薬品の開発について学ぶ。
第11・12回 11月25日 藤田 智史	(前半)平常試験 (後半)試験の解説	<ul style="list-style-type: none"> 薬理学総論にして選択問題と筆記問題により試験を行う。
第13・14回 12月2日 小林 真之	2. 薬理学各論 1) 末梢神経に作用する薬物 (教)pp. 73-80	<ul style="list-style-type: none"> 末梢神経の構造と機能について学ぶ。 自律神経系に作用する薬物について学ぶ。 筋弛緩薬の働きについて学ぶ
第15・16回 12月9日 藤田 智史	2. 薬理学各論 1) 中枢神経に作用する薬物 (教)pp. 81-92	<ul style="list-style-type: none"> 全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗てんかん薬、抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬、中枢神経興奮薬、抗Parkinson病薬、アルツハイマー病治療薬について学ぶ。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第 17・18 回 12 月 16 日 藤田 智史	2. 薬理学各論 1) 循環器に作用する薬物 2) 腎臓に作用する薬物 3) 呼吸器系に作用する薬物 4) 抗アレルギー薬 (教) pp. 93-108 pp. 121-122	<ul style="list-style-type: none"> ・ 循環系に作用する薬物を学ぶ。 ・ 高血圧, 不整脈, 心不全, 狭心症, 脂質異常症の治療薬について学ぶ。 ・ 利尿薬について学ぶ。 ・ 気管支喘息治療薬について学ぶ。 ・ 抗アレルギー薬について学ぶ。
第 19・20 回 12 月 23 日 山本 清文	2. 薬理学各論 1) ビタミン 2) 消化器に作用する薬物 3) 血液に作用する薬物 (教) pp. 66-68 pp. 109-117	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主なビタミンの薬理作用について学ぶ。 ・ 消化性潰瘍治療薬, 鎮痙薬について学ぶ。 ・ 止血機構について学ぶ。 ・ 局所性, 全身性止血薬, 抗血栓薬について学ぶ。
第 21・22 回 1 月 20 日 山本 清文	2. 薬理学各論 1) ホルモン 2) 免疫と薬 3) 悪性腫瘍と薬 4) 代謝性疾患治療薬 (教) pp. 66-72 pp. 118-134	<ul style="list-style-type: none"> ・ カルシウム代謝に関与するビタミンとホルモンについて学ぶ。 ・ 免疫増強薬と免疫抑制薬について学ぶ。 ・ 抗悪性腫瘍薬の作用機序と副作用について学ぶ。 ・ 糖尿病治療薬の働きを学ぶ。 ・ 骨粗鬆症治療薬の働きを学ぶ。
第 23・24 回 1 月 27 日 山本 清文	2. 薬理学各論 1) 炎症と薬 (教) pp. 135-143	<ul style="list-style-type: none"> ・ 炎症について理解を深める。 ・ ステロイド性抗炎症薬の作用と副作用について学ぶ。 ・ 非ステロイド性抗炎症薬の作用と副作用について学ぶ。 ・ 解熱鎮痛薬について学ぶ。
第 25・26 回 1 月 29 日 山本 清文	2. 薬理学各論 1) 痛みと薬 2) 消毒薬 (教) pp. 144-149 pp. 170-180	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻薬性鎮痛薬, 非麻薬性鎮痛薬, 麻薬拮抗薬について学ぶ。 ・ 神経障害性疼痛治療薬について学ぶ。 ・ 消毒薬の作用機序について学ぶ。 ・ 消毒薬の効果に影響を与える因子について学ぶ。 ・ 作用の強度から 3 種を分類し代表薬について学ぶ。 ・ 消毒薬の科学的な性質による分類と主な用途について学ぶ。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第 27・28 回 2 月 4 日 中谷 有香	2. 薬理学各論 1) 局所麻酔薬 (教) pp. 150-158	<ul style="list-style-type: none"> • 局所麻酔薬の作用機序, 影響を与える因子, 血管収縮薬を添加する目的について理解する。 • 局所麻酔薬の化学的構造に基づいた分類について学ぶ。 • 局所麻酔薬の適用法, 副作用について学ぶ。
第 29・30 回 2 月 6 日 藤田 智史	2. 薬理学各論 1) 抗感染症薬 (教) pp. 159-169	<ul style="list-style-type: none"> • 抗感染症薬の作用機序, 副作用について学ぶ。 • 主なペニシリン系, セフェム系, アミノグリコシド系, マクロライド系, テトラサイクリン系, ニューキノロン系抗菌薬, クロラムフェニコールについて学ぶ。